

地域創造学類カリキュラムマップ(環境共生コース専門科目)(平成24年度入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもつて参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。= 持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。= 食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。= GIS技術、環境学習、環境再生医
	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
	④ 関心・意欲	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。
⑤ 態度	地域や社会の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果						
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲
35100	自然環境の再生とその動向	日常的な生活が環境とどう関係しているか理解し、様々な環境再生の方法を学ぶ。	環境再生医、自然再生、環境再生、環境保護	2	2		○	◎	○		○		
35101	環境学習・市民活動	環境再生医の資格取得に必要な環境学習・市民活動に関する基礎的な知識を習得する。	環境再生医、環境学習、市民運動	2		2(集中)	○	○	○			○	
35102	環境行政と関係法令	環境問題と環境政策の歴史の概略を理解し、今後の環境政策のあり方を考える。	環境政策、環境行政、環境法、環境問題	2		2	○	◎	○			○	
35103	自然環境と社会	自然環境に対する人間社会の影響と、人間社会に対する自然環境の影響のそれぞれについて、基礎的な知識を習得する。	自然環境、社会環境、生態系	2		2	○	◎	○				○
35104	資源運用・循環論	「環境共生」への理解や意識を深めるにあたり、特に水産業、食料供給に関わる活動や問題を具体的事例として示しながら資源の捉え方やその利用と課題、人とのかわりなどを取扱うことを通じて、地域資源の活用や食料供給、流通構造、循環型社会形成の概観を理解する。あわせて、地理学的な見方・手法を用いた課題考察について学び、今後の学習の基礎を習得する。	資源、持続可能、循環型社会、地理学、食料、水産業	2		2		◎				○	○
35105	環境共生基礎実習	環境共生に関わる野外実習・フィールドワークの基礎的経験を積み、資料等の分析に関する基礎を身につける。	野外実習、フィールドワーク、資料・試料分析	2		4			◎		○	○	○
35106	環境と農業基礎演習	卒業研究に結びつく各種の研究手法、解析法、等を学ぶ。	実験計画、解析法、研究手法	2		2			◎		○	○	○
35107	環境と木工業基礎演習	環境保全の活動を実際に進めるために必要なこく削削の技術を身につける。	環境保全、木材加工、里山保全	2		2(集中)		○	◎	○	○	○	○
35108	環境経済論基礎演習	環境問題の概略を理解し、地域と環境について考え、レポート作成技術を身につける。	環境と経済、環境と農林業、生物多様性、コモンズ	2		2	○	◎	○		◎	○	○
35109	自然環境基礎演習	自然環境そのもの、および自然環境と人間社会の関係性について理解するための基礎的な思考を、主として地理学的な観点から身につける。	自然環境、環境保全、防災、環境利用、地理学	2		2		○	◎		○	◎	○
35110	資源活用・流通基礎演習	地域資源の活用や流通・消費に関わるテーマ・素材の考察に取り組むことを通じて、資源活用や流通に関わる今日的な課題や研究の方法や視点などを習得する。論文考察を通して、地理学的な見方や手法などを学び、文献の読み取り方、内容の整理方法やプレゼン技術、情報分析の方法、調査の方法や論文へのまとめ方などの技能習得を目指す。	資源活用、流通、消費、水産業・農業、地理学、論文考察、調査法	2		2		○	◎	○	○	◎	○
35111	社会環境論基礎演習	観光開発やダム建設、原発建設など様々な形態の開発が地域社会にもたらしたものは何なのかという点について具体的な事例研究を題材にして考察できるようにする。	開発、地域社会、社会環境	2		2	○	○	◎		○	◎	○
35149	環境教育基礎演習	環境の計画とマネジメントを巡る考え方、思想の概略を理解し、同時にその歴史や各アプローチの利点・限界点を理解できるようにする。	環境マネジメント	2		2	○	◎	○		○	◎	○

地域創造学類カリキュラムマップ(環境共生コース専門科目)(平成24年度入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。= 持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。= 食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。= GIS技術、環境学習、環境再生医
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっていく。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35112	環境と農業応用演習	農業や環境に関する様々な問題を多面的な視点から考える能力を身につける。	環境、農業	3	4			○		◎		○	○	
35113	環境教育応用演習	地域にある自然・文化資源の管理について実学的理解を深め、フィールドワーク、現場でのヒアリング、論文の書き方やプレゼン方法を身につける。	環境、観光、生物多様性、ブランド	3	4		○		◎	○	○			
35114	環境経済論応用演習	今日の環境問題の全体像を理解し、環境経済学の議論を自分のものにする。	環境政策、農林業と環境、都市と農村	3	4		○	◎			◎	◎	○	
35115	自然環境応用演習	自然環境そのもの、および自然環境と人間社会の関係性について理解するための応用的な思考を、主として地理学的な観点から身につける。	自然環境、環境保全、防災、環境利用、地理学、調査計画立案	3	4					○	○	◎	○	
35116	資源活用・流通応用演習	地域資源の活用や流通・消費、学習活動に関わるテーマ・素材を取り上げ、文献講読や自身の卒論テーマ・作業計画に取り組むことで、次年度の卒業論文の作成に備え、研究の方法や視点、論文への集約方法や情報の分析方法、プレゼンの技術などを身につける。	資源活用・流通・消費、地理学、論文構成、調査計画	3	4					○	○	◎	○	
35117	社会環境応用演習Ⅰ	地域調査の基礎的な方法を身につける。	地域調査の企画、調査計画の作成、フィールドワークの実施	3	2					○	○	◎	○	
35118	社会環境応用演習Ⅱ	自ら現地調査を行いデータを取得し、データの分析手法を身につけて報告書を作成する。	地域調査、フィールドワーク、データ分析、報告書作成	3		2				○	○	◎	○	
35119	環境と農業応用実習	環境と農業の関わり方を実際の現場で経験し学習する。	農業実践、実習、環境実習	3	4					○	◎	○	○	
35120	環境教育応用実習	域にある自然・文化資源の管理について実学的理解を深め、論文作成の素地を身につける。	環境、観光、生物多様性、ブランド	3	4					◎	○	○		
35121	環境経済論応用実習	内発的発展、持続可能な発展の農山村的なイメージを具体化する。調査の方法と論文作成の方法を身につける。	環境政策、農林業と環境、持続可能な社会、都市と農村	3	4		○	◎	○	◎	◎	◎	○	○
35122	自然環境応用実習	自然環境そのもの、および自然環境と人間社会の関係性について理解するための調査法・研究法を身につける。	地理学、フィールドワーク、調査の企画・実施	3	4					◎	○	○	○	○
35123	資源活用・流通応用実習	実際に調査対象地域を選定し、事前調査を踏まえて考察内容を固め、準備して、現地調査に向かいます(現地4泊程度)。現地調査の実施結果を整理し、報告書にまとめるまでが活動内容になります。この活動を通して、卒業論文の作成のための技能や視点などを身につけてください。	地域、資源・流通・消費、持続的な利用、地理学、現地調査、報告書作成	3	4					◎	○	○		○
35124	社会環境応用実習Ⅰ	地域調査の実践的能力を習得する。夏季休業中にフィールドワーク実習を行い、地域調査の方法を習得する。	地域調査、フィールドワーク、人文地理学	3	2(集中)					◎	○			○
35125	社会環境応用実習Ⅱ	夏休み実施の地域調査データを整理し、補足調査を実施。データ分析を行い結果を論文に纏める能力を高める。	フィールドワークの実施、データ分析と整理、報告書作成	3		2				◎	○			○
35126	自然環境基礎論	日本と世界の自然環境・自然地理に関する基礎的な知識を取得する	自然地理学、地図、気圏、水圏、生物圏	1	2		○	◎					○	○

地域創造学類カリキュラムマップ(環境共生コース専門科目)(平成24年度入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。= 持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。= 食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。= GIS技術、環境学習、環境再生医
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっていく。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35127	環境思想	今なぜ「環境」七日を具体的に追求し、各種の問題事項を自分の言葉で説明する努力を試みる。	環境、人間と自然、持続可能性	2	2		◎	○			○	◎	○	○
35128	耕地環境論	耕地、農地、自然立地を生態学的な視点から理解する能力を身につける。	耕地、自然立地、農地、環境	2	2			◎	○		○	○		
35129	環境と農業	農業生産と環境との相互関連性について、科学的に理解する能力を身につける。	農業生産、環境	2	2			◎	○		○	○		
35130	環境教育論*	生物多様性や里山を環境教育の題材として、環境教育とCEPAの活動について考え、どのような方法があるのかを考える。自らが小学校、中学校に行つて説明ができる。*「技術」の教員免許取得希望者は「自然環境と技術教育」として履修	生物多様性、CEPA	2	2		○	○			○		◎	○
35150	環境コミュニケーション論	組織レベルでの環境への取り組みの仕組みについての理解を深める。個別の仕組みに加え、環境負荷の把握と指標化、低減、情報発信を理解できる。	環境マネジメント	2		2	○	○		○			○	○
35131	環境と木工業	市民レベルでの環境保全活動を実践するために必要な基礎的技術としての木材加工の知識を身につける。	自然環境、木材加工、木工業	2	2(集中)		○	○	○				○	
35132	環境経済論	自然資本と人工資本の関係を理解し、エコロジー経済学を学び、共進化の観点から環境問題を理解する。	自然資本と人工資本、環境政策手法	2~4 偶数年度開講	2		○	◎				○		
35133	農業経済論	戦後日本の農業農村の概史から農業産業としての農業が抱える様々な課題に関する理解を深める。	農業経済学入門、農業技術、農村、都市と農村の対立	2~4 奇数年度開講	2		○	◎				○		
35134	環境政策論	今日の代表的な環境問題の概要を理解し、環境問題への統合的なアプローチを学ぶ	環境政策、循環型社会、持続可能な社会	2~4 偶数年度開講		2	◎	○				○		
35135	農業政策論	農業を巡る諸問題や政策を批判的に検討できるよう、農業と総山村について理解を深める。	日本農業事情、農業政策、環境、	2~4 奇数年度開講		2	◎	○				○		
35136	自然環境変動論	第四紀の環境変動と景観形成に関して理解する。	自然地理学、第四紀、気候変動、水期間水期サイクル	2~4 24年度開講		2	○	◎					○	○
35137	地生態学	生物の分布と環境の関係性について理解する。	自然地理学、地生態学、生物分布、環境変動	2~4 25年度開講		2	○	◎					○	○
35138	応用地理学	自然災害と地理的環境との関係性について理解する。	自然地理学、防災、自然災害、土地条件、ハザードマップ	2~4 26年度開講		2	○	◎					○	○
35139	地理情報学	地理情報システム(GIS)に関する基礎的な知識を取得する。	地理情報システム(GIS)、地図、空間分析	2~4 奇数年度開講		2			◎	○	○	○		

地域創造学類カリキュラムマップ(環境共生コース専門科目)(平成24年度入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。= 持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。= 食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。= GIS技術、環境学習、環境再生医
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっていく。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果						
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲
35140	流通・消費論	様々な地域に存在する多様な資源が、複雑な・多岐に渡る地域や関係者、システムを通して流通・普及する様子に注目し、需要者に消費されるまでの過程や構造と、そこで取り組まれている工夫や残されている課題について考察することができるようになる。地理学的な研究に注目することで、「地域」を見つめる大切さへの意識を高め、研究の視点や手法についても理解を深めることで、将来各自が行う卒業論文での地域調査に必要なスキルの習得の足がかりとする。	流通・消費、資源活用、フードシステム、四定条件、地理学	2	2		◎		○		○		
35141	地域資源活用論	モノや自然環境、人材、生活文化や歴史など、地域が有する資源を活用し、より豊かな生活創出、優位でかつ持続的な産業活動や地域形成、教育・文化的活動、マーケティングやブランド化、認知行動などを検討していくための考え方、取り組み方や、その際に課題となる点などを学ぶ。地理学的研究の特徴や手法を先行研究を用いた事例紹介から学び、卒業作成に必要な地域を観察する技能を身につける。地域資源についてパンフレット・紹介マップを実際に作成し、報告・検討をする機会を通じて、標的市場や人々に効果的に情報を伝える技能を身につける。	地域、資源、産業・経済、生活と文化、持続可能な利用・方法・しくみ、地理学	2		2		○		○		◎	
35142	社会環境論A	現代社会における自然と社会の関係に関する人文地理学の基礎的な理論と概念を理解できるようにすることを目標とする。	自然と社会、人文地理学	2~4 奇数年度開講	2			○		○		◎	
35143	社会環境論B	英語圏における「自然の地理学」研究の理解を深めることで、自然と社会、人間と環境の関係についての社会批判的な視点を身につけることを目標とする。	自然の地理学、批判理論	2~4 偶数年度開講	2			○		○		◎	
35144	社会環境論特殊講義A	人文地理学の諸分野における近年の研究成果についての知識を得る。	人文地理学	2~4 24年度開講	2(集中)			◎		○		○	
35145	社会環境論特殊講義B	人文地理学の諸分野における近年の研究成果についての知識を得る。	人文地理学	2~4 25年度開講		2(集中)		◎		○		○	
35146	自然環境論特殊講義	自然環境に関するさまざまな領域について、専門的な知識を取得する。	自然環境	2~4 26年度開講	2(集中)		○	◎	○			○	
35147	自然環境技術実習	自然環境を計測、表示、分析するための基礎的な技術を取得する。	測量、地図化、天気図、空中写真判読	2	2				◎	○	○	○	○
35148	地理情報学実習	地理情報システム(GIS)に関する基礎的な技術を取得する。	地理情報システム(GIS)、地図、空間分析	2~4 偶数年度開講		2			○	◎	○	○	○
35400	卒業演習	各自の関心・テーマを探究し卒業論文を執筆するための研究・実験・調査等を行うとともに、論文執筆の技法を身につける。	卒業論文、論文執筆の技法	4	4		◎		◎	◎		◎	
35401	卒業研究	各自の関心・テーマを探究し大学での学習の集大成となる卒業論文を執筆する。	卒業論文	4		6		◎	◎		◎		◎

地域創造学類カリキュラムマップ(環境共生コース専門科目)(平成24年度入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝ 持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝ 食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝ GIS技術、環境学習、環境再生医
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							知識・理解 理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度